

まちデザインミーティング実施のポイント

「まちデザインミーティング」は、地域課題を共有し、多様な主体が対話を通じて解決策を考え、実践につなげる場であることが伝わる内容が望ましいです。社会教育士の専門性（ファシリテート、コミュニケーション、プレゼンテーション）を生かしながら、企画立案・実施に向けて次のポイントを意識して取り組みましょう。

項目	観点	ポイント
① 地域課題の把握・分析	地域の現状やニーズを適切に把握し、課題を明確に設定できているか	・地域の実情や住民の声を踏まえた課題設定となっているか。 ・課題の背景や原因が整理されているか。 ・地域にとって必要性の高いテーマとなっているか。
② 対話・協働のプロセス	多様な主体との対話を通じて、協働による取組を進めているか	・地域住民や関係団体など多様な主体が参画しているか。 ・参加者同士が意見を出し合い、相互理解が深まる場となったか。 ・新たな連携やネットワークの構築につながったか。
③ 社会教育士によるコーディネート	学びを生かし、人や地域資源をつなぐ社会教育士としての役割を発揮できたか	・多様な主体をつなぐ調整や働きかけが行われたか。 ・地域資源や人材を効果的に活用しているか。 ・参加者の主体的な学びや活動を引き出しているか。
④ 地域への成果・波及性	取組による成果や地域への影響、今後の広がりが見られるか	・地域課題の解決や改善につながる成果が見られたか。 ・地域住民の意識や行動の変化が生まれたか。 ・他地域でも参考となる実践となっているか。
⑤ 継続性・発展性	プロジェクト終了後も継続・発展していく可能性があるか	・今後も継続できる体制や役割分担ができているか。 ・次の取組や新たな展開が見込まれるか。 ・地域に定着し、将来的な発展が期待できるか。

※上記の項目は、成果報告会において、審査の観点となります。

まちデザインミーティングの具体例

	＜例１＞ 社会教育人材がつながる 「あなたもわたしも社会教育人材」	＜例２＞ 多世代で考える 「地域の居場所づくり」	＜例３＞ 誰もが暮らしやすい地域を考える 「共生のまちづくりミーティング」
テーマ	地域で活躍する社会教育人材同士がつながり、新たな活動を生み出そう	子どもから高齢者まで集える地域の居場所を考えよう	外国人や高齢者、障がいのある方も安心して暮らせる地域づくりを考えよう
内容	○社会教育を認識していない地域活動の実践者と社会教育士がつながる ○地域で活動する社会教育人材の取組や課題を共有 ○互いの専門性や経験を生かせる連携アイデアを検討 ○継続的なネットワークづくりを推進	○社会教育士が仲介となって、子どもと高齢者をつなぐ ○地域資源や困りごとを整理 ○新たな交流イベントや居場所づくりのアイデアを検討 ○実現に向けた役割分担や今後のアクションの話し合い	○当事者や支援団体が喫緊の課題を提示し、その解決に向けたファシリテーションを社会教育士が担う ○困りごとや地域でできる支援をグループで検討 ○多文化共生や地域交流のアイデアを創出 ○地域で取り組める具体的な活動につなげる
対象	社会教育士、社会教育主事、地域学校協働活動推進員、NPO、自治体職員、地域活動の実践者など	地域住民、町内会、学校、学校運営協議会、社会福祉協議会、学生など	外国人住民、福祉団体、学校、行政、地域住民など

そのほか、

- ☑ 人口減少・担い手不足を考える「未来の地域づくりミーティング」
- ☑ 空き家・空き店舗の活用を考える「地域資源活用ミーティング」
- ☑ 防災・地域コミュニティを考える「みんなでつくる防災まちづくりミーティング」
- ☑ 若者の地域定着を考える「若者×地域デザインミーティング」
- ☑ 地域の学びを生かす「学びがつながるまちづくりミーティング」

など、地域住民が社会教育士と一緒に地域課題解決に向けた取組が「まちデザインミーティング」ですので、

テーマは自由に設定してください。